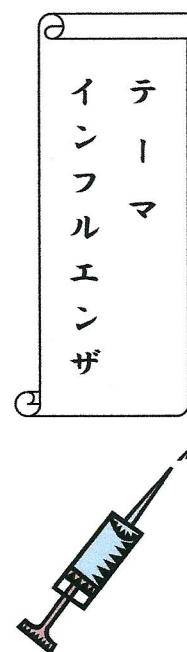


健 康 新 聞



もう、10月に入つたにもかかわらず、夏日となる事もある今年の気象。“インフルエンザ”なんてと思つてしましますね。

しかし、夜との気温差があり、体調を崩しやすく風邪やインフルエンザにかかりやすいので、気をつけましょ。そこで、まず、現状の“インフルエンザ”的な状況からお知らせしたいと思います。

※ インフルエンザの現状 =

直近の2010年第34～38週の5週間では新型インフルエンザが10府県から42件（茨城県10件・沖縄県9件・福島県5件・千葉県・神奈川県各4件・静岡県・奈良県各3件・宮崎県3件・大阪府・福岡県各1件）A香港型が16都府県から62件（沖縄県16件・奈良県9件・千葉県7件・神奈川県6件・愛媛県4件・茨城県・山口県各3件・福島県・高知県・福岡県・熊本県・大分県各2件・東京都・新潟県・大阪府・和歌山県各1件）B型4県から7件（千葉県3件・沖縄県2件・静岡県・広島県各1件）うち千葉県の2件は系統不明株）となっています。これを見る限りでは、新型インフルエンザは38%を占めています。

週）表立つてインフルエンザについて、ニュースで取り上げられることはあります。もう、すぐそこにインフルエンザウイルスが潜んでいると思っていても間違いなさうです。

39週では、患者報告数が284件あり先週（38週）よりやや増加している。

※ インフルエンザと風邪の相違は？

「かぜ」とは、鼻・のど・気管などの呼吸器にさまざまな病原体が感染して起る急性の病気の総称で、正確には「かぜ症候群」と言います。「急性鼻炎」「急性咽頭炎」「急性扁桃腺炎」「気管・気管支炎」などを含んでいます。病原体のほとんどは、ライノウイルス、アデノウイルス、コクサッキーウィルス、または子どもに多いRSウイルスなどのウイルスです。病原体はさまざまでも、症状はだいたい似ています。くしゃみ、鼻水、のどの痛み、咳などの呼吸器の症状と、発熱や頭痛などの症状が出現します。

一方、「インフルエンザ」とはインフルエンザウイルスが原因で起こる病気で、軽く済む人がいるのも事実ですが突然の発熱や全身の倦怠感などの症状が特徴です。「伝染性が非常に強く、あつという間に人から人へうつり、広い範囲で流行すること（具体例…学級閉鎖）」「症状が激しく重症化しやすいこと（具体例…普段のかぜでは仕事を休まない人がインフルエンザでは欠勤することがあります）」「肺炎や脳症などの合併症や持病の悪化を引き起こして、死に至ることもあること（具体例…インフルエンザの流行と時期に一致して日本全体の死亡率がたかくなります）などから慎重な予防対策と発生した後の対応が必要です。普段のかぜとは区別すべき病気です。

※ インフルエンザ脳症

前回にも小さい記事ではありましたが、記載しました。今回は、もう少し具体的に思っています。実はインフルエンザ脳症で亡くなるお子さんは、1歳をピークに10歳までがほとんどです。しかし20歳でも亡くなる事もあります。年間100～300人が脳症に罹り、死亡率は30%を超えていた時代もありました。最近では、15%に減少。しかし、後遺症は25%もあるという厚生労働省のデータがあります。

かぜとインフルエンザの相違

	インフルエンザ	かぜ
発病	急激	比較的ゆっくり
症状の部位	強い倦怠感など全身的	喉や鼻など局所的
悪寒	強い	軽い
発熱	高い、しばしば39～40℃	ないか、あっても37℃台
からだの痛み	強い	なし
重病感	あり	なし
鼻・咽喉炎	全身症状に継続して起こる	先行して起り、特徴的にみられる

*（株）アステラス製薬ホームページより引用

痙攣の種類と相違

	インフルエンザ脳症	熱性痙攣
※ 痉攣前後に異常な言動がみられる場合もあります。	痙攣が止まつたのに意識がしつかり戻らない	痙攣のあとすぐ意識が戻った
	15～20分以上痙攣が続く	1回のみ5分以内の痙攣

痙攣は筋肉のこわばりやガクガクとした動きで、1分程度の短いものから20分以上長く続くものもあります。回数も1回だけや何回も繰り返すこともあります。熱性痙攣との違いを頭に入れておいた方がいいかと思います。

痙攣は筋肉のこわばりやガクガクとした動きで、1分程度の短いものから20分以上長く続くものもあります。回数も1回だけや何回も繰り返すこともあります。熱性痙攣との違いを頭に入れておいた方がいいかと思います。